香曽我部義則先生の今月のカルテ ㊾

慢性痛とペインクリニック

■プロフィル　こうそがべ・よしのり　昭和54年に岡山大学医学部卒業後、同大学麻酔科・蔵生科講師、岡山労災病院麻酔科第一部長に。平成16年から現職。日本麻酔学会専門医。日本ペインクリニック学会認定医。現在日本麻酔学会、日本ペインクリニック学会、日本慢性疼痛学会、国際疼痛学会などに所属

梶木病院麻酔科・ペインクリニック科の香曽我部義則先生が、痛みの治療について分かりやすく説明してくれるコラム。肩の疾患は、肩部の筋・骨格系、頸椎（けいつい）・頸髄・神経根など、主に整形外科的疾患で生じます。今回は「五十肩」に代表される肩関節の痛みのブロック療法についてです。

50歳代に多く見られる原因のない肩の痛み「五十肩」改善は、関節ブロックなど3つの治療を組み合わせて

肩は「骨」、骨で形成される「関節」、骨と関節を支え保持する「筋肉」から成ります。骨の構成は図1に示すように肩甲骨、上腕骨、鎖骨の3つから成ります。関節は肩甲骨と上腕骨によって肩甲上腕関節（肩関節）が形成され、肩甲骨と鎖骨によって肩鎖関節が形成されます。その上に多くの筋肉が付着しています。

肩関節の疼（とう）痛と運動制限を主症状とする肩関節の機能障害を肩関節周囲炎といい、明らかな原因がない肩の痛みを年齢では40～50歳、特に50歳代に多く見られるため「五十肩」と呼んでいます。肩を動かす際に生じる鋭い痛みが特徴ですが安静時にも痛みが出たり、痛みで目が覚める夜間痛も重症例では見られます。

痛み止めの薬や安静でも痛みが解消しない場合はブロック治療が有用です。ブロック治療には主に3つの方法があり、単独あるいは組み合わせて行うと大変有効です。

1つ目は関節に対するブロック療法で、関節注射と呼ばれている方法です。広く行われている方法が図2に示す、肩峰と上腕骨の間に注射をする肩峰下滑液包内注射法です。炎症を鎮めるステロイドと局所麻酔薬を混合して注射をすることですぐ効果が出ます。1回の治療で改善しない場合は、ヒアルロン酸を単独、または局所麻酔薬を混合して週1回のペースで注射をします。感染を防ぐためこのブロックをした日は入浴を避けます。

2つ目には関節注射だけでは効果が不十分な場合、肩関節周囲の筋肉の圧痛点（トリガーポイント）に局所麻酔薬を注射する方法です。

3つ目は肩甲上神経ブロックです。図3に示す肩甲上神経を局所麻酔薬でブロックします。肩甲上神経は棘上筋と棘下筋肩関節・肩鎖関節を支配しているためこのブロックによって肩の上げ下げや回旋時の痛みを改善できます。単独では効果が弱くてもこの3つを組み合わせることで肩の痛みが改善できます。

梶木病院（西花尻）
☎(293)3355㈹

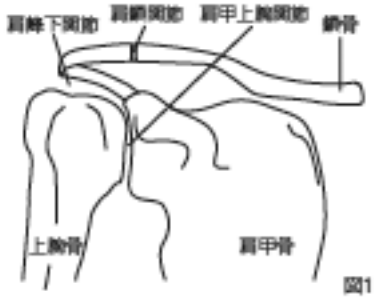

図1

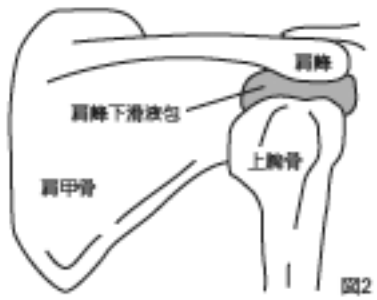

図2

図3